

令和 7 年度
広島市立美鈴が丘高等学校
教育課程
年間授業計画
－ シラバス －



第 1 学年

年間指導計画表(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	○教科書「現代の国語」(第一学習社) ○副教材「論読 現代文1」(浜島書店) 「漢字ボックス」(浜島書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実社会において理解したり表現したりするために必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	(比較文化)「水の東西」 (文学)「羅生門」 (言語)「ものとことば」 (自己と他者)「『本当の自分』幻想」 (文学)「城の崎にて」 【言語活動】「スピーチで自分を伝える」	・定期考査 ・春課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・春課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・レポート 等
	評価点	100点	100点	100点
後期	(情報・メディア)「現代の『世論操作』」 (文学)「砂に埋もれたル・コルビュジエ」 (科学技術)「『文化』としての科学」 (社会・政治)「フェアな競争」 【言語活動】「社会に対する意見文を書く」 【探究編】「地域の魅力を紹介する」	・定期考査 ・冬課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・冬課題テスト ・小テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・レポート 等
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	●春課題テスト	6
	5	(比較文化)「水の東西」→ 東西の対比関係を用いながら論じる叙述の方法を把握する。	6
		(文学)「羅生門」→ 下人の行動や心理を元に場面の展開をとらえ、老婆の語る論理が下人に与えた影響を読み取る。	6
	6	(言語)「ものごとことば」→ 具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の主張を捉える。	6
		●第一回考查	
	7	【言語活動】「スピーチで自分を伝える」	4
		●夏課題テスト	
後期	8	(自己と他者)『『本当の自分』幻想』→ 主張に説得力を持たせるための論の展開を把握する。	7
	9	(文学)「城の崎にて」→ 物語の構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。	7
		●第二回考查	
	10	(情報・メディア)「現代の『世論操作』」→ 筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。	6
	11	【言語活動】「社会に対する意見文を書く」 *冬課題として扱う場合もある。	4
		(文化)「砂に埋もれたル・コルビュジエ」→ 父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握する。	6
	12	●第三回考查	
		(科学技術)『『文化』としての科学』→ 対比構造をもとに科学と技術の違いを的確に読み取る。	7
	1	(社会・政治)「フェアな競争」→ 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉える。	7
	2	【探究編】「地域の魅力を紹介する」	4
	3	●第四回考查	

5 その他

「現代の国語」は、「物事を多様な視点から見つめ、自ら問いを立てて考えること」、「自ら立てた問いに取り組み、考えたことを伝え合うこと」を目的に学びを進めていきます。互いの考えを尊重しながら、お互いを高め合おうという意識を持って授業に臨んでください。

○小テストは必ず学習してからテストに臨みましょう。また、教材の語句の意味調べをするなど予習をしましょう。

○話し合いやグループワークには積極的に参加し、人の意見にもきちんと耳を傾けましょう。

○現代文を理解したり、話し合ったり、文章を書いたりするためには、歴史や社会についての知識・理解が不可欠です。日ごろから新聞や雑誌を読み、情報を収集・整理しておきましょう。

○週末課題の問題集は、期限および指示を守り、「身に付く学習」にするにはどうしたらよいかを自分で考え、工夫して取り組みましょう。未提出や不備については、指導の対象となります。

○現代文は暗記科目ではありません。積極的に本文の内容を読み取り、話題について自分の考え・意見を持ちましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	言語文化	単位数	2 単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	○教科書「精選言語文化」(三省堂) ○副教材「古典の演習 三訂版 基礎力養成編」(尚文出版) 「みるみる覚える古文単語300+敬語30」(いっずな書店) 「漢文必携 五訂版」(桐原書店) 「完全傍訳やさしくくわしい古典文法 三訂版」(尚文出版) 「記入してわかるやさしくくわしい古典文法ノート 修訂版」(尚文出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	(古文入門)「児のそら寝」【宇治拾遺物語】 (漢文入門)「成句・格言を読む」【借虎威】 (古文)「丹波に出雲といふ所あり」【徒然草】 (漢文)【論語】 (古文)「芥川」「東下り」【伊勢物語】 (和歌)【万葉集・古今和歌集・新古今和歌集】	・定期考査 ・春課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・春課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	100 点	100点	100点

後期	(漢詩)「静夜思」「送元二使安西」「春望」ほか (古文)「門出」【土佐日記】 (古文)「帰京」【土佐日記】 (漢文)「先從隗始」	・定期考査 ・夏課題テスト ・小テスト 等	・定期考査 ・夏課題テスト 等	・週末課題 ・授業態度 ・ノート ・授業課題 等
	評価点	100 点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	●春課題テスト	
	5	(古文入門)「児のそら寝」【宇治拾遺物語】→動詞に注意して、内容をとらえる。	5
		(漢文入門)「成句・格言を読む」「借虎威」→訓読のきまりを理解し、内容をとらえる。	5
		(古文)「丹波に出雲といふ所あり」【徒然草】→用言、係り結びに注意して、内容をとらえる。	8
	6	●第一回考査	
	7	(漢文)【論語】→思想を理解し、内容を味わう。	5
	8	●夏課題テスト	
	9	(古文)「芥川」「東下り」【伊勢物語】→助動詞に注意して、内容をとらえる。 (和歌)【万葉集・古今和歌集・新古今和歌集】→表現技法に注意しながら、和歌に親しむ。	10 3
後期		●第二回考査	
	10	(漢詩)「静夜思」「送元二使安西」「春望」→漢詩のきまりに注意して内容を味わう。	6
	11	(古文)「門出」→助動詞に注意して内容をとらえる。	10
		●第三回考査	
	12	(古文)「帰京」→助動詞に注意して内容をとらえる。	9
	1	●冬課題テスト	
	2	(漢文)「先從隗始」→句法に注意して、内容をとらえる。	9
	3	●第四回考査	

5 その他

○授業の予習・復習・課題等により、古典文法等の知識事項を確実に習得するように取り組み、文章の読解力を身に付け、必要な国語力を修得しましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の変化に係わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚などを深める。
使用教科書 副教材等	教科書:『現代の歴史総合－みる・読みとく・考える－』(山川出版社) 副教材:『新詳歴史総合』(浜島書店)、『現代の歴史総合－みる・読みとく・考える－ノート』(山川出版社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用したりして多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[1部 歴史の扉] [2部 近代化と私たち] 1章 結びつく世界と日本の開国 2章 国民国家と明治維新 [3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち] 1章 総力戦と社会運動	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

後期	〔3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 2章 経済危機と第二次世界大戦 〔4部 グローバル化と私たち〕 1章 冷戦と世界経済 2章 世界秩序の変容と日本	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析	・授業中の行動観察 ・各種提出物 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔1部 歴史の扉〕 1章 歴史と私たち	5
	5	2章 歴史の特質と資料 〔2部 近代化と私たち〕 1章 結びつく世界と日本の開国 2章 国民国家と明治維新	5
	6	----- 第1回考査	3
	7	3章 近代化と現代的な諸課題 探究活動1 単元のまとめ:「近代化と私たち」	5
	8		6
	9		2
		〔3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 1章 総力戦と社会運動 ----- 第2回考査	7
			3
後期		〔3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 2章 経済危機と第二次世界大戦 3章 大衆化と現代の諸課題 探究活動2 単元のまとめ:「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 ----- 第3回考査	8
	10		8
	11		
		〔4部 グローバル化と私たち〕 1章 冷戦と世界経済 2章 世界秩序の変容と日本	5
	12		6
	1		
	2	3章 現代的な諸課題の形成と展望 探究活動3 単元のまとめ:「グローバル化と私たち」 ----- 第4回考査	7
	3		

5 その他

・授業中に図版や資料の読み取りをします。 ・授業方法としては、資料を読むことを中心に進めていきます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	単位数	2+2+1 単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動及び式と証明の各分野について、以下のことを目指す。 内容を理解し、基礎的な知識を習得し、技能を習熟させる。 事象を数学的に考察する能力を培う。 数学のよさを認識できるようになる。 これらを活用する態度を身に付ける。 自らの学習方法・成果を振り返り、よりよい学習へ調整する。
使用教科書 副教材等	「高等学校 数学Ⅰ」(数研出版) 「高等学校 数学A」(数研出版) 「高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅰ+A」(数研出版) 「クリアー 数学Ⅱ+B+C」(数研出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 第1章 数と式	定期考査	定期考査	探究学習
	数学Ⅰ 第2章 集合と命題	課題テスト	課題テスト	学習の振り返り
	数学Ⅰ 第3章 二次関数	単元確認テスト	単元確認テスト	提出物等
	数学Ⅰ 第4章 図形と計量	提出物等	提出物等	
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	数学Ⅰ 第5章 データの分析	定期考査	定期考査	探究学習
	数学A 第1章 場合の数と確率	課題テスト	課題テスト	学習の振り返り
	数学A 第2章 図形の性質	単元確認テスト	単元確認テスト	提出物等
	数学A 第3章 数学と人間の活動	提出物等	提出物等	
	数学Ⅱ 第1章 式と証明			
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	オリエンテーション1（高校での数学の学習について） オリエンテーション2（タブレットの活用について） 数学Ⅰ 第1章 数と式	45
	5	第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 探究学習1 1次不等式	
	6	数学Ⅰ 第2章 集合と命題 探究学習2 命題	
	6	数学Ⅰ 第3章 2次関数	
		第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	
		探究学習3 2次関数の値の変化 探究学習4 2次方程式と2次不等式	
		第1回考査	
	7		
	8		
後期		数学Ⅰ 第4章 図形と計量	45
	9	第1節 三角比 第2節 三角形への応用 探究学習5 三角比の活用	
		第2回考査	
	10	数学Ⅰ 第5章 データの分析 探究学習6 データの分析の活用	
		数学A 第1章 場合の数と確率	
	11	第1節 場合の数 第2節 確率	
		探究学習7 場合の数 探究学習8 確率	
	12	第3回考査	
		数学A 第2章 図形の性質	
後期		第1節 平面図形 第2節 空間図形 探究学習9 図形の性質	40
	1		
		数学A 第3章 数学と人間の活動 探究学習10 数学と人間の活動	
	2	数学Ⅱ 第1章 式と証明	
		第1節 式と証明 第2節 等式・不等式の証明	
後期		第4回考査	45
	3	今年度の振り返りと次年度に向けて	

5 その他

高校での数学の学習について

脳は何歳からでも活性化できます。普段から、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけるよう心がけましょう。

授業や課題に次のような姿勢で取り組みましょう。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身に付けましょう。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨きましょう。
※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。
3. 自らの学習方法・成果を振り返り、よりよい学習へと改善していきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	化学基礎	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	啓林館「i 版 化学基礎」(化基 707) 啓林館「デジタル教材、学習サポートプラットフォームLibry」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	240 点	240 点	240 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	〔序章「化学」って何?〕 〔第1部 物質の構成〕 第1章 化学と物質 第2章 物質の構成粒子 第3章 化学結合 〔第2部 物質の変化〕 第1章 物質質量と化学反応式	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	120 点	120 点	120 点
後期	第1章 物質質量と化学反応式 つづき 第2章 酸と塩基 第3章 酸化還元反応 〔終章 化学が拓く世界〕	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・実験レポート等の記述分析	・学習課題等 ・実験レポート等の記述分析
	評価点	120 点	120 点	120 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔序章「化学」って何?〕 探究1 砂糖水と食塩水の区別	2
		〔第1部 物質の構成〕	
		第1章 化学と物質	8
		・ 純物質と混合物(1～2 節) 探究2 混合物の分離	
	5	・ 物質とその成分(3～4 節) 探究3 身近な物質の成分元素の検出	
		・ 粒子の熱運動と物質の三態(5 節)	
		第2章 物質の構成粒子	8
		・ 原子の構造と電子配置(6～8 節)	
	6	・ イオン(9～10 節)	
後期	7	・ 元素の周期表(11 節) 第 1 回考査	11
		◆ 第3章 化学結合	
		・ イオン結合(12～13 節)	
		・ 共有結合(14～20 節)	
		・ 金属結合(21 節)	
	8	・ 化学結合と物質の分類(22 節)	
		〔第2部 物質の変化〕	
	9	第1章 物質と化学反応式	7
		・ 物質と濃度(23～27 節)	
後期		・ 溶液と濃度(28 節) 第 2 回考査	
		◆	
	10	・ 化学変化の量的関係(29～31 節) 探究4 化学変化の量的関係	4
		第2章 酸と塩基	12
		・ 酸と塩基(32～33 節)	
		・ 水の電離とpH(34～35 節)	
	11	・ 中和と塩(36～38 節)	
		・ 中和滴定(39～40 節)	
		探究5 中和滴定 第 3 回考査	
後期		◆ 第3章 酸化還元反応	15
	12	・ 酸化と還元(41～45 節)	
	1	・ 金属の酸化還元反応(46～47 節)	
	2	・ 酸化還元反応の利用(48～50 節)	
	3	〔終章 化学が拓く世界〕 第 4 回考査	3
後期		◆	

5 その他

- 化学基礎の授業では自分の考えをしっかりと持った上で、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 学習課題は ICT 機器を活用して配信・提出を行います。各自のタブレット端末に Libry のアプリケーションをインストールしてください。詳細は授業で連絡します。
- 探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説や検証計画を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	体育	単位数	3 単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを旨とする。 (1)運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解し、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、他者の尊重などの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
使用教科書 副教材等	現代高等保健体育(大修館書店) ステップアップ高校スポーツ2025(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、体力の必要性等について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などの意欲をもち、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けようとしている。
評価点	250 点	250 点	250 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	体づくり運動 体育理論 男子:武道(柔道)、球技(ソフトボール)、器械体操(マット運動) 女子:球技(ソフトボール・バドミントン・テニス)、器械体操(マット運動)	スキルテスト 授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析
		130 点	130 点	130 点
後期	体づくり運動(なわとび) 男子:陸上競技(長距離走)、武道(柔道)、球技(バレーボール・サッカー) 女子:陸上競技(長距離走)、球技(バドミントン・テニス・サッカー・バレーボール)	スキルテスト 授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析	授業中の行動観察 レポートの記述分析
		120 点	120 点	120 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容		時数
		男子	女子	
前期	4	領域【体づくり運動】 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。		54
	5			
	6	領域【器械運動(マット運動)】 ・技がよりよくできたり、技の行い方、体力の高め方を理解することができる。自己や仲間の課題を発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【球技(ソフトボール)】 ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによる攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	7	領域【球技(ソフトボール)】 ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによる攻防ができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【器械運動(マット運動)】 ・技がよりよくできたり、技の行い方、体力の高め方を理解することができる。自己や仲間の課題を発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	8	領域【体育理論】 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することができる。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。		
	9			
	10	領域【武道(柔道)】 ・相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりすることができる。 ・自己や仲間の課題を発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【ネット型球技(バドミントン・テニス)】※選択 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	11	領域【球技(バレーボール)】 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【球技(サッカー)】 ・安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	
	12	領域【陸上競技(長距離走)】 体づくり運動(なわとび) ・自己に適したペースを維持して走ることができる。 ・自己や仲間の課題を発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。		
	後期	1		
2		領域【球技(サッカー)】 ・安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる。	領域【球技(バレーボール)】 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・自己やチームの課題の発見、解決に向けて自己の考えを他者に伝えることができる	

年間指導計画表(シラバス)

科目名	保健	単位数	1単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
使用教科書 副教材等	現代高等保健体育(大修館書店) 現代高等保健体育ノート(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて自ら思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習を主体的に取り組んでいる。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	【1 単元 現代社会と健康】 01～14	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートや振り返りの記述分析 ・グループワークでの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートや振り返りの記述分析 ・グループワークでの記述分析	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・自主学習・振り返りの記述分析
	評価点	100点	100点	100点
後期	【1 単元 現代社会と健康】 15～19 【2 単元 安全な社会生活】 01～06	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートや振り返りの記述分析 ・グループワークでの記述分析	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・ノートや振り返りの記述分析 ・グループワークでの記述分析	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・自主学習・振り返りの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	【1 単元 現代社会と健康】 01 健康の考え方と成り立ち 探究活動①;健康の捉え方の歴史を振り返る 02 私たちの健康のすがた 探究活動②;生きることと病気について考える 03 生活習慣病の予防と回復	18
	5	04 がんの原因と予防 探究活動③;がんの克服<がん治療最前線>を知る 05 がんの治療と回復 探究活動④;がんと共に生きる人々を支える取り組みを知る	
	6	06 運動と健康 探究活動⑤;自分の身体活動量を調べる 07 食事と健康 探究活動⑥;BMI から自分の肥満度を調べる 08 休養・睡眠と健康 <第1回考査>	
	7	09 喫煙と健康	
	8	10 飲酒と健康 探究活動⑦;酒の広告について考える 11 薬物乱用と健康 探究活動⑧;薬物乱用への誘いに対処を考える	
	9	12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 探究活動⑨;ストレスや不安への対処法を考える 14 精神疾患からの回復 探究活動⑩;うつ病からの回復例から学ぶ	
	10	<第2回考査>	
後期	11	15 現代の感染症 探究活動⑪;薬剤耐性菌について考える 16 感染症の予防 探究活動⑫;新たなインフルエンザについて考える 17 性感染症・エイズとその予防	17
		18 健康に関する意思決定・行動選択	
		19 健康に関する環境づくり 探究活動⑬;イッキ飲みを防ぐために 探究活動⑭;望ましくない習慣をやめる手立てを考える	
	12	<第3回考査>	
	1	【2 単元 安全な社会生活】 01 事故の現状と発生要因 探究活動⑮;防災・避難計画について考える 02 安全な社会の形成 探究活動⑯;犯罪から身を守るために注意することを考える 03 交通における安全	
	2	04 応急手当の意義とその基本 05 日常的な応急手当	
		06 心肺蘇生法 探究活動⑰;実習<心肺蘇生法>	
	3	<第4回考査>	

5 その他

- 健康について自分の考えをしっかりと持ったうえで、ペア学習やグループ学習を通して学びを深めていきます。
- 内容のまとめに毎に課題(レポート)を提出してもらいます。それを踏まえて授業での学習活動に取り組んでください。
- 学習課題や振り返りの提出は原則 ICT 機器を利用し、classroom 上で行います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2単位
		学年等	第1学年・選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する能力をはぐくみ、表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史背景についても理解し、広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。
使用教科書 副教材等	MOUSA1(教育芸術社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって演奏や鑑賞をすることができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、表現意図をもって演奏することができる。	自らが、音楽が持つ魅力を探し探求し楽しんでいこうという思いで学習に取り組んでいる。作品の良さを音楽的知識と結びつけ、自分の感性を働かせて音楽表現や鑑賞を楽しむことができている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	日本語の歌 三線に親しもう 舞台芸術(ミュージカル) 創作 ドイツ・イタリア歌曲 ギターに親しもう	・実技試験 ・ワークシート ・授業中の取り組み	・実技試験 ・ワークシート ・課題プレゼンテーション ・授業中の取り組み	実技試験 ・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点
後期	西洋音楽史 舞台芸術(オペラ) 混成三部合唱に取り組もう ボディーパーカッション 郷土の民謡と芸能	・実技試験 ・ワークシート ・授業中の取り組み	・実技試験 ・ワークシート ・課題プレゼンテーション ・授業中の取り組み	・実技試験 ・振り返りシート等 ・授業中の取り組み
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	日本語の歌 ・発声や発音、歌う姿勢を身につけて歌う	6
	5	・日本のポピュラー音楽、歌曲を歌詞と曲想との関わりについて理解し、表情豊かに歌う 三線に親しもう ・和楽器の響きを味わいながら弾き歌いをする ・音の重なりを感じながら、2重奏をすることができる	7 6
	6	創作 CUPS でリズムアンサンブルを創ろう！	4
	7	舞台芸術(ミュージカル) ・ミュージカルの鑑賞を通して、歴史的・文化的背景と作品との関わりについて学習する	6
	8	イタリア・ドイツ歌曲 ・イタリア語、ドイツ語の発声や発音、歌う姿勢を身につけて歌う ・歌詞の内容と曲想との関わりについて理解し、表現を工夫して歌う	7
	9	ギターに親しもう ・ギターの奏法、正しい姿勢を身につけ、メロディを弾けるようになる ・ギターの音の重なりを味わいながら 2 重奏をする ・ギターの和音の響きを感じ取りながらコードを弾いて弾き語りをする	
後期	10	西洋音楽史 ・西洋音楽の流れを理解し、作品の成立した時代背景と音楽との関わりについて考える (中世・ルネサンス、バロック、古典派、ロマン派、近・現代)	8
	11	舞台芸術(オペラ) ・オペラの鑑賞を通して、様々な芸術が関わり合って成り立つ舞台芸術の魅力に迫る	8
	12	混成三部合唱・混成 3 部合唱の響き ・パートの役割を理解し、混成 3 部合唱をする	8
	1	・3声の重なり合いを感じ取りながら表現を工夫してよりよい混成 3 部合唱を創る ボディーパーカッション	5
	2	・リズムの重なり合いを意識して、音色や強弱を工夫して演奏する 郷土の民謡と芸能	
	3	プレゼンテーション課題を通して、広島県に伝わる民謡・芸能について知り、民謡・芸能を継承することの課題と意味について考える。	5

5 その他

音楽は、積極的に演奏や鑑賞に取り組むことで学習が深まります。音楽 I では、様々な音楽に触れ、歌唱や器楽の基礎を学びましょう。また、一人で演奏に取り組むこともありますが、2重奏や2重唱、グループ演奏、合唱など複数人で取り組むことも多い科目です。ペアやグループでの活動では、周りの仲間と積極的に関わり合い、協調性、リーダーシップ、そして主体的に学習に取り組む力を身につけてほしいと思います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2単位
		学年等	第1学年・選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校生の美術1(日本文教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	ペン画(ゼンタングル)の制作 エコバッグ制作 鉛筆デッサン(静物)の制作 イメージ画の制作	・提出作品 ・提出プリント	・提出作品 ・作品解説用紙	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100点	100点	100点
2	粘土作品の制作 テーマ制作(絵画)	・提出作品 ・提出プリント	・提出作品 ・作品解説用紙	・鑑賞プリント ・振り返りシート
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	○ペン画(ゼンタングル)の制作 ・描画材としてのペンの特性 ・ゼンタングルとは ・ペン画の描き進め方	8
	5	・アイディアスケッチの作成 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
		○エコバッグ制作	8
	6	・アクリルガッシュの使い方 ・さまざまな版画について ・アイディアスケッチの作成 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	7	○鉛筆デッサン(静物)の制作 ・描画材としての鉛筆の特性 ・デッサンとは ・デッサン用鉛筆の削り方	4
	8	・デッサンの描き進め方 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	9	○イメージ画の制作 ・アクリルガッシュ基礎演習 ・色彩／構図について ・アイディアスケッチの作成 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	16
後期	10	○粘土作品の制作 ・様々な立体造形作品の鑑賞 ・使用粘土の特徴について ・彫塑道具の使い方について	17
	11	・アイディアスケッチの作成 ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	12	○テーマ制作(絵画)	
	1	・テーマの解釈、図案の考案について ・アイディアスケッチの作成	17
	2	・混色／筆のタッチについて ・制作 ・完成作品の鑑賞と振り返り	
	3		
		1年間のまとめ	

5 その他

- 授業時間数が少なく、限られているので、集中して、能率よく作業をするようにしよう。
- 美術は手間です。こだわりを持って手間を惜しまないようにすれば、おのずから、実力が身に付いてきます。
- 常に次に行うことを考え、事前に準備をし、忘れ物をしないようにしよう。後片付けを確実に行ってください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	書道 I	単位数	2単位
		学年等	第1学年・選択

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
使用教科書 副教材等	東京書籍 書道 I ペン習字の基礎

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	書写から書道へ	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
	漢字の書① 楷書・篆書			
	篆刻			
	漢字の書② 行書			
	仮名の書① 基本			
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	漢字の書③ 創作 鑑賞①	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析	・提出作品等 ・授業中の行動観察 ・ファイル(ワークシート)の記述分析
	仮名の書② 変体仮名			
	生活の中の書① 硬筆楷書			
	仮名の書③ 連綿と古筆			
	漢字仮名交じりの書 鑑賞②			
	生活の中の書② 硬筆行書			
	漢字の書④ 一字書創作			
	鑑賞③			
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	書写から書道へ・書写と書道の違い、用具・用材の扱い方や姿勢・執筆法について理解する。	4
	5	漢字の書①・楷書古典の学習(用筆・運筆法) ・古典学習の意義を理解する。 ・様々な書体や書風の古典をその特徴と時代と人物を通して鑑賞する。	12
	6	「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「牛欄造像記」「鄭義下碑」「雁塔聖教序」「自書告身」 ・篆書の特徴や執筆法について理解する。	
	7	篆刻 ・篆刻の歴史や用途を理解する。 ・篆書学習を生かした自印(落款印)を彫る。 ・相互鑑賞で他者の作品を味わう。	8
	8	漢字の書②・行書の特徴を理解し、多様な書風に関心を持つ。 ・行書古典の学習(用筆・運筆法) ・古典学習の意義を理解する。 ・様々な書体や書風の古典をその特徴と時代と人物を通して鑑賞する。	8
	9	「蘭亭序」「争坐位稿」 仮名の書①・仮名の成立と変遷について学び、鑑賞する。 ・小筆の扱いに慣れ、仮名の基本用筆を学ぶ。 ・平仮名の単体について	4
	10	漢字の書③・漢字創作…小屏風制作 ・2字～4字の熟語を利用し、自らの意図に基づいた主体的な表現を工夫する。 ・屏風表装・書作品の表装を学ぶ。	12
	11	鑑賞①・相互鑑賞で他者の作品を味わう。	2
	12	仮名の書②・変体仮名について知り、その表現効果と美しさを理解する。	3
後期	1	生活の中の書①・硬筆…楷書の書き方と運筆を学ぶ。	2
	2	仮名の書③・連綿について理解し、仮名独特のリズミカルな運筆を表現する。 ・古筆「高野切第三種」を通して、仮名表現の美について学ぶ。 ・短冊の書き方について理解し、作品制作をする。	4
	3	漢字仮名交じりの書・芭蕉の句を使って、漢字仮名交じりの基本的な作品制作について学ぶ。 ・半切 1/3 の大きさの色紙に、自ら選定した言葉を表現することにより意図に基づいた主体的な表現を工夫する。	5
	4	鑑賞②・相互鑑賞で他者の作品を味わう。	1
	5	生活の中の書②・硬筆…行書の運筆について学ぶ。	1
	6	漢字の書④・一字書創作…墨色と多彩な線質について理解を深める。	3
	7	鑑賞③・相互鑑賞で他者の作品を味わう。	1

5 その他

- 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」を学ぶ。様々な書体(篆書・楷書・行書・草書など)の基礎学習や、古典の鑑賞や臨書によって書の伝統や文化を理解し自己の表現力の向上に努めてほしい。
- 生活の中に書道で学んだ様々な活動を取り入れ、多くの手がかりを得るよう積極的に学ぼう。
- 中国や日本の書道史の学習においては、世界史や日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- 清書や添削作品、プリント類をファイルしておく。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション I	単位数	4 単位
		学年等	1 学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	FLEX ENGLISH COMMUNICATION I (増進堂) Real-Life Listening 1(旺文社) 必携英単語 LEAP(数研出版株式会社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	400	400	400

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	Starting Lesson Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	200	200	200
後期	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	200	200	200

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Starting Lesson Mascot Characters for Towns ①各地域のマスコットキャラクターの表すメッセージを理解し、自分たちの地域のマスコットキャラクターについて考察する。 ②中学校で既習の文法事項を復習する。	10
	5	Lesson 1 How Can WE Become Stronger? ①松岡修造氏の金言に込められたメッセージを理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②助動詞や不定詞の用法を理解し、それらを用いて表現する。	13
	6	Lesson 2 The Jar of Life ①教授が伝えようとした人生における重要なメッセージを理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②動名詞や間接疑問文の用法を理解し、それらを用いて表現する。第1回考査	13
	7	Lesson 3 It's Always Sunny in Space ①JAXA による宇宙開発計画についてその長所や短所を踏まえて理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②現在完了形や後置修飾の用法を理解し、それらを用いて表現する。	12
	9	Lesson 4 Malala: Fighting for Women's Right ①マラルの生い立ちや発信している内容を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②関係代名詞や過去完了形の用法を理解し、それらを用いて表現する。	12
		Lesson 5 Mount Fuji ①富士山が「文化遺産」として世界遺産に登録された背景を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②使役動詞や節を導く形式主語の it の用法を理解し、それらを用いて表現する。第2回考査	12
後期	10	Lesson 6 Thomas the Tank Engine and SDGs ①SDGs の概要を把握し、SDGs が「きかんしゃトーマス」のいくつかのエピソードに取り入れられた意義を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②関係代名詞 what や強調構文の用法を理解し、それらを用いて表現する。	16
	11	Lesson 7 Virtual Water ①「仮想水」の概念を把握し、日本が抱えている問題点を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②関係代名詞の非制限用法や関係副詞の用法を理解し、それらを用いて表現する。第3回考査	16
	12	Lesson 8 Wearable Robots May Change Our Life ①HAL の概念や HAL に込められた山海氏の思いを理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②仮定法過去や仮定法過去完了の用法を理解し、それらを用いて表現する。	12
	1	Lesson 9 Biomimicry – Inspired by Nature ①「バイオミミクリー」の概念やそれがどのような形で私たちの身の回りのものに応用されているのかを理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②知覚動詞や分詞構文の用法を理解し、それらを用いて表現する。	12
	2	Lesson 10 Donald Keene and His Love of Japan ①ドナルド・キーンの日本文学の研究と普及に捧げた人生を理解し、その理解した内容を自分の言葉で表現し、相手に伝える。 ②前置詞+関係代名詞や完了進行形の用法を理解し、それらを用いて表現する。第4回考査	12
	3		

5 その他

英語は世界に通用するコミュニケーション・ツールです。英語の特徴的な構造や英語が話される国の文化や背景についてもしっかり学び、高校卒業時には英語で意思の疎通が図れるようになることを目指しましょう。

授業では、読む活動を中心に聞いたり書いたりする活動も多く取り入れます。読んだり、聞いたりする際には、多少理解が難しい事があっても、前後関係などから意味を考えるようにしましょう。考えながら読んだり聞いたりすることが大切です。また、ペアワークやグループワーク、発表活動なども取り入れます。

加えて、書く活動はみなさんの英語力を伸ばすためにとても大切です。最初は間違いを恐れず書く活動に取り組み、徐々に正しい英文で書けるようになることを目指しましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	論理・表現 I	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書 副教材等	Vision Quest English Logic and Expression I Standard(啓林館) Vision Quest 論理表現 I Standard ワークブック(啓林館) Vision Quest 総合英語 3rd Edition(啓林館)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	200点	200点	200点
後期	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述	・定期考査等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述 ・パフォーマンステスト	・学習課題等 ・授業中の行動観察 ・学習プリントの記述
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Lesson 1 I want to introduce my new friends. ①文の種類:様々な種類の文を適切に作り、まとまりのある文で表現する。 ②応答する / 理由を述べる	6
		Lesson 2 Do you want to join our show?	6
	5	①文型と動詞:5つの文型を理解し、文を組み立てて表現する。 ②賛成・反対する / 聞き直す	
		Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend.	6
	6	①時制:基本時制の構造と概念を理解し、適切な時制を用いて表現する。 ②激励する・励ます / 計画する・予定する	
		第1回考查	6
		Lesson 4 Have you ever tried it before?	
	7	①完了形:現在・過去・未来完了形の概念を理解し、適切な用法を用いて表現する。 ②経験を尋ねる / 初めての経験を述べる	6
		Lesson 5 What do you want to do after school?	
後期	9	①助動詞:助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現する。 ②許可を求める・依頼する / 義務・必要を表す / 回想する・自省する	6
		Lesson 6 Did you hear about the new shop?	
		①受動態:受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、適切に使い分けて表現する。 ②原因・影響を表す / 喜び・驚きを表す	6
		第2回考查	
	10	Lesson 7 I'm happy to have you with us.	5
		①不定詞:不定詞の様々な用法を理解し、より詳細な情報を表現する。 ②感謝する / 謝罪する / 弁解する	
	11	Lesson 8 What sport do you like playing?	5
		①動名詞:動名詞の様々な用法を理解し、動名詞句を用いて表現する。 ②誘う・申し出る / 推薦する	
	12	Lesson 9 Digital media has come a long way.	6
		①分詞:名詞修飾や補語になる用法、分詞構文や付帯状況を分詞を用いて表現できる。 ②描写する / 判断の根拠を述べる	
	1	第3回考查	6
		Lesson 10 That's why I decided to go back.	
	2	①関係詞:関係詞の様々な修飾のしかたを理解し、語句の限定や補足説明などを表現する。 ②定義する / 言い換える / 経緯を説明する	6
	3	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or expensive ones?	6
		①比較:比較に関する様々な用法と表現を理解し、適切に使い分けて表現する。 ②提案する / 賞賛する	6
		Lesson 12 I think it's a good idea.	
		①仮定法:仮定法を用いて、事実と違うことや実際には起こりえないことを表現する。 ②助言を求める・助言する / 願望を表す	6
		第4回考查	

5 その他

英語で適切にコミュニケーションを取れるようになるためには、英語独特の文構造や文法の決まりを知っておくこと、また内容に関連した単語や表現を身につけることが必要です。ルールを知り、様々な表現方法を知った上で正確な発音を身につけようとする態度で何度も音読を繰り返すとともに、ある程度まとまりのある文章を書いたり即興でスピーチしたりする練習を繰り返しましょう。英語でのコミュニケーションにおいて最も大切なことは、間違いを恐れず積極的に話したり、書いたり、聞いたりする姿勢をもつことです。授業ではペアワークやグループワーク、発表活動など取り入れます。このような活動には、お互いを理解し高める気持ちで積極的に取り組みましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭科・家庭基礎	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
使用教科書 副教材等	「高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる」(第一学習社) 「2025 最新 生活ハンドブック 資料&成分表」(第一学習社) 自主教材:授業プリント・ワークシート

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 章 これからの生き方と家族 3 章 充実した生涯へ 4 章 とともに生きる 7 章 住生活をつくる 2 章 次世代をはぐくむ 5 章 食生活をつくる	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・定期考査 ・課題レポート	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・定期考査 ・課題レポート	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・課題レポート
	評価点	120 点	80 点	100 点
後期	5 章 食生活をつくる 8 章 経済生活をつくる 6 章 衣生活をつくる	・授業中の行動観察 ・ワークシート(活動) ・学習プリント ・定期考査 ・課題レポート ・作品 ・実技テスト	・授業中の行動観察 ・ワークシート(発表) ・学習プリント ・定期考査 ・課題レポート ・作品	・授業中の行動観察 ・ワークシート(発表) ・学習プリント ・課題レポート ・作品
	評価点	80 点	120 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	1 章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計	5
	5	第2節 家族・家庭と社会とのかかわり <u>探究活動 1 男女共同参画“家庭・家族”</u>	5
		3 章 充実した生涯へ 高齢社会を支える <u>探究活動 2 高齢者の疑似体験・介助体験</u>	
	6	4 章 とともに生きる 1. 社会保障制度と社会的連帯 2. 人の多様性と社会参加 <u>探究活動 3 様々な人への支援を考える</u>	3
		第1回考査	4
			1
	7	7 章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい 第2節 住生活の計画と選択 <u>探究活動 4 1人暮らしの平面図作成</u> <u>探究活動 5 地域のハザードマップを調査する</u>	6
	8	2 章 次世代をはぐくむ	5
	9	第1節 子どもの発達 第2節 子どもの生活 第3節 子育て支援と福祉 <u>探究活動 6 子どもとのかかわり方を考える</u>	
		5 章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事	7
後期	10	第2節 栄養と食品 <u>探究活動 7 栄養計算にチャレンジ</u> 第3節 食生活の安全のために 第4節 食生活をデザインする <u>探究活動 8 安全で衛生的な調理実習に挑戦</u>	10
		8 章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済	5
	11	第2節 消費者問題を考える 第3節 持続可能な社会をめざして第3回考査	
			1
	12	5 章 食生活をつくる <u>探究活動 9 行事食実習</u>	3
		8 章 経済生活をつくる <u>探究活動 10 持続可能な消費活動を表現</u>	4
	1	6 章 衣生活をつくる <u>探究活動 11 個性をいかした被服実習に挑戦</u>	11
	2	第1節 人の一生と被服 第2節 被服材料と管理	
	3	第3節 これからの衣生活	

5 その他

○授業時間を大切に、授業で使ったプリント類は毎時間きちんと整理して、学習した項目を確認しましょう。

○単元ごとに実習や実験等の体験学習や探究活動を行います。時間毎の目標に到達できるように、積極的に取り組み、学習の質の向上に努めましょう。

○班学習が多くあります。自分とは異なる考えがあることを理解し、協力・協働し、学び合しましょう。

○知識と技能を習得するのみにとどまらず、生活を総合的に把握し課題を見出し、解決するための実践力を身に付けていてください。(近年、大学入試での小論文試験等において、さまざまな学部で生活体験に基づいた分析と考察が求められる家庭科教育内容に関する問題が出題されています。日頃から新聞や文献を読んで、知識を広めておいてください。)

年間指導計画表(シラバス)

科目名	情報Ⅰ	単位数	2単位
		学年等	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
使用教科書 副教材等	数研出版「情報Ⅰ Next」・実教出版「基礎からはじめる情報リテラシー」・実教出版「Excel でまなぶプログラミング」

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	効果的なコミュニケーションを実現するために必要な情報デザイン、コンピュータを活用するために必要な情報が処理される仕組み、データを活用するために必要な収集、整理、分析の方法、プログラム、モデル化とシミュレーション、ネットワーク、データベースなどについて理解し、技能を身に付けるとともに、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、コミュニケーションの手段、コンピュータ、ネットワーク、データ及びデータベースなどの活用を通して、情報社会などの問題の発見・解決に向けて、試行錯誤と振り返り及び改善を行い、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養っている。	情報と情報技術を適切に活用することで、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養っている。
評価点	280 点	280 点	280 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 情報社会と問題解決 第1章 情報とメディア 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第4章 プレゼンテーション 第3章 情報デザイン	・定期考査等 ・実技テスト ・授業中の行動観察 ・実習課題等 ・動画視聴メモ等	・定期考査等 ・実技テスト ・授業中の行動観察 ・実習課題等 ・動画視聴メモ等	・授業中の行動観察 ・実習課題等 ・動画視聴メモ等
	評価点	140 点	140 点	140 点
後期	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース、第3章 データ分析 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第3編 コンピュータとプログラミング 第2章 プログラミング 第3章 モデル化とシミュレーション	・定期考査等 ・実技テスト ・授業中の行動観察 ・実習課題等 ・動画視聴メモ等	・定期考査 ・実技テスト ・授業中の行動観察 ・実習課題 ・動画視聴メモ等	・授業中の行動観察 ・実習課題等 ・動画視聴メモ等
	評価点	140 点	140 点	140 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	第1編 情報社会と問題解決 第1章 情報とメディア	15
	5	タイピング、画像処理、Web ページの利用に関する実習 第2章 情報社会における法とセキュリティ 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響	
	6	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第4章 プレゼンテーション プレゼンテーションに関する実習	10
	7		
	8	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 情報デザイン	11
	9	文書作成ソフトの活用に関する実習	
		第2回考査	
後期	10	表計算ソフトの活用に関する実習 第1章 情報のデジタル表現 情報のデジタル変換に関する演習	10
	11	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ	
		第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ ネットワーク構築に関する実習	4
	12	第2章 データベース 第3章 データ分析	8
	1	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ HTMLに関する実習	5
	2	第3編 コンピュータとプログラミング 第2章 プログラミング 表計算マクロによるプログラミング実習	7
	3	第3章 モデル化とシミュレーション 第4回考査	

5 その他

- ・ICT の活用方法をしっかり身に付け、将来に役立ててください。特にネットワークの知識は重要です。
- ・情報機器の操作の習得だけではなく、情報社会の進展や課題についても各自で関心を持つようにしてください。
- ・毎時間の授業を大切に、集中して取り組んでください。
- ・友達にたよらず、自分で解決する態度を身に付けてください。

令和7年度 未来計画 年間指導計画

広島市立美鈴が丘高等学校 全日制課程

実施学年(1)年

学校において定める 目 標		3年間の系統的な探究活動を通じて、変化の激しい社会の中に課題を見だし、その課題について「自分ごと」化して自ら学び、思考・判断し、問題をよりよく解決しようとする資質や能力を育てる。 (1)教科横断的な探究の「型」を学ぶことを通じて、課題の発見と、解決に必要な知識および技能を身につける。 (2)社会と自分とのつながりの中から課題を発見し、解決のプロセスを思考・判断したうえで、その分析を他者にわかりやすく伝えるための表現力を身につける。 (3)他者との協働的な活動を通じて、主体的に学ぼうとする姿勢やよりよい社会を実現しようとする態度や人間性を身につける。
内 容	探 究 課 題	・探究基礎力育成:「マイヒストリープロジェクト」「好き探究プロジェクト」を通して、探究に必要な型を身に付けるとともに、自らの内面に向き合い、自分の興味関心を発見し、それをキャリアにつなげる視点を養う。 ・地域探究:「コンソーシアム連携型地域探究プロジェクト」を実施し、地域の企業や官公庁等と連携し、地域の魅力を発見したり、課題を解決したりすることを通じて、探究のプロセス(課題設定→情報収集→情報の整理・分析→まとめ・表現)を体験する。
	育成を目指す 具 体 的 な 資 質 ・ 能 力	1. 与えられたテーマから適切な課題を設定し、ふさわしい調査方法で情報を収集する能力 2. 事実を正確に把握するとともに、設定した課題を情報にもとづいて論理的に考察する能力 3. 解決した課題を他者の視点に立ちながら要点をまとめ分かりやすく表現する能力
付 与 す る 単 位 数		2 単位
授業時数の配当方法		火曜5時間目と木曜6時間目に設定する。
学 習 活 動		地域探究を中核に据え、情報収集と資料作成、発表を組み合わせ学習活動を行う。
教 材 の 使 用 等		業者の教材や校内で作成したワークシート、タブレット端末等を用いる。
指導方法・指導体制		・指導原案は教育研究部が作成し、そのうえで担任・副担任を問わず学年教員で指導にあたる。 ・教育研究部のほか、教務部、進路指導部などの関係部署で連携して指導にあたる。
評価規準・評価方法		・個人、グループで作成した成果物を保存し、評価する。 ・学習に対する振り返りを通じて、学習過程における能力や態度の伸長を評価する。

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習活動 (場所)	各教科・特別活動等との関連・ 指 導 上 の 留 意 点 等
探究基礎力育成	4月	課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ	【オリエンテーション】 講演等を通じて探究の意義について理解する。	5	個人・グループ (各教室)	○自分の意見を持ちつつ、他者とやりとりをする中でお互いの意見の良い部分を増幅し、悪い部分を調整するように協同的な合意形成を行う。 ○情報収集の場面ではテーマに関連する教科と連携して進める。 ○好き探究では好きなことが各教科へどのようにつながるかを意識させ、キャリア教育へつなげていく。
	5月		【マイヒストリープロジェクト】 自分が力を入れてきたものや人生の転機、好きなものを調べることで自らの興味関心を発見する。	10	個人・グループ (各教室)	
	6月			8	個人・グループ (各教室)	
	7月		【好き探究プロジェクト】 好きなものの魅力について、根拠をもって他者に伝えるとともに、好きなものの追究が誰を幸せにするか考える。	5	個人・グループ (各教室)	
	8月	基礎力育成	【基礎力育成プロジェクト】 「大人の社会」に目を向け、マナーや社会課題に対して目を向ける。	2	個人・グループ (各教室)	
	9月			5	個人・グループ (各教室)	
地域探究	10月	課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ	【コンソーシアム連携型地域探究】 コンソーシアムから与えられた課題をもとに複数のプロジェクトを設け、情報を収集し適切に整理・分析し、まとめて発表する。	35	個人・グループ (各教室)	○情報収集の場面ではテーマに関連する教科と連携して進める。
	11月				個人・グループ (各教室) 平和公園など	
	12月				個人・グループ (各教室)	○実際に地域の関係者に話を聞きに行くなど、できる限り地域資源を生かした取り組みをする。
	1月				個人・グループ (各教室)	
	2・3月				個人・グループ (各教室)	